



令和7年産

〈減農薬・減化学肥料〉

※無断コピー及び転用を禁止します。



江刺金札米 特別栽培米栽培暦

令和7年産（品種切替用）

〈減農薬・減化学肥料〉

目 標			1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																							
種子及び対象品種			生育目標指標（目標収量540kg／10a）							江刺金札米の土づくりについて																
1.種 子 全量種子更新	2.品 種 銀河のしずく	栽植 密度 (株/坪)	中干し開始 m茎数 (本)	最高分げつ m茎数 (本)	m穂数 (本)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり	稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー 施用量 80～100kg／10a 金札有機入り春専用一発 施用量 100～120kg／10a																	
			310～ 345	470～ 515	390～ 430																					
			1株あたり																							
			70	16	24	20	62～ 70		90%	稲わら鋤き込みと あわせた基本的な 土づくり（秋施用を推奨）	稲わら + 金札春一番（春施用）・秋一番（秋施用） 金札フジクオー（秋施用）										施用量 50kg／10a 施用量 45kg／10a					
60	19	28	24						堆肥施用とあわせた 土づくり	堆 肥 + 金札エネルギー										施用量 40kg／10a						
作業内容等	4 月		5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月								
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
生育ステージ	播種・育苗		田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			減数分裂期			出穂期			登熟期			成熟期		
水 管 理	畦畔の整備・補修（環境保全）		水深6～10cm (低温から稲を守る)			3cm前後（生育促進）			中干し 溝切り			間断灌水 (徐々に深水)			15cm前後 (低温から幼穂を守る)			高温の場合は、地温を下げる水管理をしましょう (夜間かんがいや水の入替え頻度を増やす等)			開花期（浅水）			間断灌水（徐々に落水期間を長く）		
地域一斉草刈り	カメムシふ化盛期前後（5月中下旬）					イネ科雑草が出穂する前にこまめに実施					水稻の出穂10～15日前					本田にカメムシを追い込む可能性があるため控える										
作 業 内 容	播 種		代かき	田植え			中干し・溝切り			追肥			落 水 (出穂30日後)			収 穫			秋 耕			土づくり資材散布				
	基肥散布・耕起			〇作土深は15cm確保			〇高温障害回避のため 早期移植は控える			〇目標穂数の8割を確 保したら（目安は田 植え後30日）、期間 は14日間程度実施						〇カメムシ防除は畦畔 や周辺の除草を徹底 し、穂揃いから1週 間後までに実施			〇積算気温950～ 1,050℃を目安に 籾の黄化割合で判 断し、適期収穫			〇稲わらの分解促進 のためできるだけ 早い時期に耕起				
農薬防除体系	〔種子消毒〕 浸種の最終日 24時間浸漬		〔箱施用剤〕 〔初期除草剤〕 田植え直後 〔初中期一発除草剤〕 初期剤散布 10～20日後			〔中期除草剤〕			〔いもち病予防剤〕 葉いもちが発生しなかつた 場合は無防除可能			〔カメムシ防除剤〕 ※1回防除														

肥 培 管 理			雑 草 防 除			病 害 虫 防 除			収 穫 ・ 乾 燥		
1.施 肥			1.耕種的防除			1.耕種的防除			1.適期刈り取りの励行		
基 肥	肥 料 名	施用量 (窒素成分量) kg／10a	〇畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 〇代かき～田植えまでの日数は4日以内とする。			〇カビ・細菌病 出芽温度を28～30℃を目安にする。 〇いもち病：取置き苗除去の徹底。 〇カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬ま でに畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の 防除を徹底する。 ③水稻の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧 草の刈り取りを行う。			〇バインダー刈り 適期は80～90%が黄化、または穂軸の 1／3が黄化。 〇コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態（降雨直後、降水中）での収穫は 極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインと もに、出穂後積算平均気温で1,050℃を 目安にする。		
	新・金札ひとめぼれ	30 (3.0)	2.薬剤防除			2.薬剤防除			2.乾 燥		
	金札有機入り ひとめぼれ	40～60 (4.0～6.0※)	各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。			〇種子伝染性病害防除 薬剤名：タフブロック 浸種の最終日に24時間浸漬処理（200倍希釈） 浸漬は水温12～15℃で期間は7～10日、 催芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。			〇自然乾燥 収穫後直ちに棒掛けまたは、はせ掛けし品 質保持のため、2週間から20日間を目安 に乾燥する。乾燥不十分の時は機械乾燥で 仕上げる。		
	金札有機入り 春専用レギュラー	80～100 (4.8～6.0※)	薬 剤 名 散 布 時 期 散布方法			〇葉いもち+初期害虫防除 薬剤名：Dr. オリゼリディア箱粒剤 移植3日前～移植当日（散布後十分に散水）、 側条施用可			〇機械乾燥 収穫後は、直ちに乾燥施設に搬入する。二段 乾燥を行い、乾燥中の籾水分の均一化、過 乾燥の防止、胴割れ粒の混入防止に努める。		
	有機プレーパー ペースト734	40～60 (2.8～4.2※)	初期剤 エリジャン乳剤・ ジャンボ ※推奨：移植後5日まで			〇穂いもち防除 薬剤名：コラトップ（予防剤） 出穂30～5日前、湛水散布 葉いもちの発生がない場合は省略可能。			3.調 製		
コーペースト 222P	25 (3.0)	初中期 ソルネット 1キロ粒剤 ※推奨：移植後5日まで			〇カメムシ防除……キラップ（1回防除） 発生源である本田内の雑草をなくし、出穂10 日前の水田畦畔及び周辺の草刈りとあわせて の薬剤防除が効果的です。			篩目は1.9mmを使用。整粒歩合80%以上を 目標。			
追 肥	金札追肥	栄養診断による追肥 9～10 (0.9～1.0)	初中期 カウシルコンプリート 1キロ粒剤 ※初中期との体系処理です			剤 型 散布適期					
基 肥 一 発 型	金札有機入り ひとめぼれ一発	50～70 (5.0～7.0※)	1（右記3種類の中から 1剤を選択して散布）			粉剤、フロアブル 穂揃い期～穂揃い1週間後まで					
	金札有機入り 春専用一発	100～120 (6.0～7.2※)	バサグラン 粒剤 移植後15～55日 バサグラン 液剤 移植後15～55日 トド×MF 1キロ粒剤 移植後14日～ ノビエ5葉期 トド×MF 乳剤 移植後14日～ ノビエ7葉期 ロイヤント 乳剤 移植後20日～ ノビエ5葉期			ホタルイ クログワイ オモダカ 等 落水散布 ※散布後最 低3日間は 止水管理 ノビエ 落水または 落水散布 イボクサ、 クサネム ノビエ 落水散布			粒剤 出穂10日前～出穂期		
※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。			薬 剤 名 散 布 時 期 対象雑草 散布方法								
●堆厩肥を1.5t／10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。			バサグラン 粒剤 移植後15～55日			ホタルイ クログワイ オモダカ 等			落水散布 ※散布後最 低3日間は 止水管理		
●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。			バサグラン 液剤 移植後15～55日								
			トド×MF 1キロ粒剤 移植後14日～ ノビエ5葉期			ノビエ					
			トド×MF 乳剤 移植後14日～ ノビエ7葉期			落水または 落水散布					
			ロイヤント 乳剤 移植後20日～ ノビエ5葉期			イボクサ、 クサネム ノビエ			落水散布		

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用方法を守り、散布履歴の記帳を徹底する



農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用
時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守る
ことが基本です。
散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳して
おきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の
確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明に
もなります。

